

# IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

## ■ 開催概要

- ◆ 日 時 : 平成 25 年 8 月 24 日 (土) 13:00~17:00、25 日 (日) 10:00~17:00
- ◆ 場 所 : なごや地球ひろば 2 階 セミナールーム A
- ◆ 参加者数 : [1 日目] 受講者 39 名、JICA 7 名、NIED 4 名、オブザーバー 2 名、合計 52 名  
: [2 日目] 受講者 37 名、JICA 4 名、NIED 5 名、オブザーバー 1 名、合計 47 名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・国際理解教育センター 伊沢令子

## ■ 第3回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育の参加型プログラムの作り方について学び、多様な手法を習熟する。

- ① 参加型手法と参加型手法を活用したアクティビティについての理解を深める。
- ② アクティビティを活かした流れのあるプログラムを実際に作ってみる。
- ③ ファシリテーション実践を通してよりよい参加型とファシリテーターのポイントを確認し持ち帰る。

## ■ プログラムの内容

### ● セッション1 「行動変容と参加型」 8/24 13:04~15:32

#### 1. 主催者あいさつ／第3回のねらいの確認 13:04~[9]

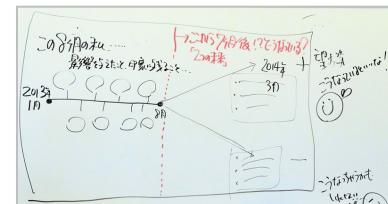
- ◇ 司会があいさつし、オブザーバー (JICA 北海道) を紹介する。
- ◇ レジュメなどをもとに第3回のねらいと内容についてファシリテーターが説明を行う。
- ◇ 1~8 の番号を振って同じ番号の人同士でグループになる。

#### 2. 第2回のふりかえり 13:13~[31]

- ◇ 第2回の記録を各自読み、印象に残った3カ所に下線を引く。
- ◇ お似合いのイニシャルについてグループで自己紹介した後、下線を引いた理由を1カ所 30 秒程度で紹介し合う。
- ◇ ふりかえりがコミュニケーションスキルに役立つこと等についてファシリテーターが解説する。

#### 3. アイスブレーキング～タイムライン 13:44~[27]

- ◇ 2013 年 1 月～2014 年 3 月について、次のことを各自考え用紙に書く。
  - ① 2013 年 1 月から今日までに自分に影響を与えたこと
  - ② 明日から 2014 年 3 月までにこうなるといいなど望む未来
  - ③ 明日から 2014 年 3 月までにこうなってしまうだろうと思う未来
- ◇ このタイムラインを作つてみてわかったこと、感じたことを 3 つ用紙の裏に各自書き、その後グループで発表しあう。
- ◇ 参加型手法の一つである「時間軸で捉える～タイムライン」についてファシリテーターが解説する。



#### 4. グループ替えと一言自己紹介 14:11~[12]

- ◇ 1~9 の番号を振つて同じ番号の人同士でグループになる。
- ◇ 「自分が子どもの頃好きだった〇〇 (遊び、お菓子・食べ物、テレビ番組・ラジオ番組、人、場所)」についての一言自己紹介をグループで行う。

#### 5. 子どもの頃一目置いていた大人? 14:23~[28]

- ◇ 一目置いていた大人 (あんな人になりたい! 何かあったら相談したいなど) を各自思い出し、一目置いていたポイントを考え用紙に書き、その後グループで共有する。
- ◇ 共有してみてわかったことをグループで話し合い、用紙に書き全体で 2 つ発表する。→ 成果 1 参照 (わかったこと)
- ◇ 板書した発表内容をファシリテーターが読み上げながら再度確認する。

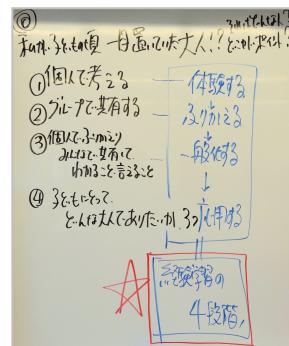
## 6. わたしがこうありたいと思う大人 14:51-[9]

◇ 自分はどのような大人でありたいか各自3つ考え用紙に書く。その後グループで発表する。

## 7. 行動変容を支える参加型=経験学習の4段階ミニレクチャー 15:00-[5]

◇ 経験学習の4段階（「体験する」→「ふりかえる」→「一般化する」→「応用する」）について、アクティビティ5から6にかけて行った実例を当てはめてファシリテーターが解説する（右図参照）。また「他人事を自分事に置き換えて考えることも行動変容を支えることにつながる。」ことを説明する。

- 休憩 - 15:05-[10]



## 8. グループ替えと一言自己紹介 15:15-[7]

◇ 隣同士のグループで背中を合わせている人が入れ替わる。

◇ 「この夏、一番楽しかったこと」についての一言自己紹介をグループで行う。

## 9. 行動変容を支える参加型=「わかる」から「できる」へミニレクチャー 15:22-[11]

◇ 板書された内容=「わかる」から「できる」をつなぐ方法「①知識・情報：現状と課題を知つてもらう」→「②気づき：自分ごとにするために内発的に気づく」→「③意識化：何をしたらよいかわかり日常の中で覚えている」→「④スキルトレーニング：具体的に関わる方法を身につけ繰り返しやってみる。」をファシリテーターが解説する。

## ● セッション2 「アクティビティと参加型手法」 8/24 15:32-16:20

## 1. アクティビティとは？ 15:32-[14]

◇ 配付資料をもとにアクティビティについてファシリテーターが説明する。

◇ 第1回から第2回に行った30のアクティビティを「ねらい」+「内容」+「手法」に表した資料を各自読む。

## 2. 12のものの見方・考え方と参加型手法 15:46-[24]

◇ 配付資料「参加型手法=12のものの見方・考え方から」を各自読み、自分が使ったことがある手法に印をつける。

◇ わからない手法、イメージしにくい手法についてグループ内で補い合う。

◇ 12のものの見方・考え方の参加型手法のうち研修で使っていないものやグループ内で補うことができなかった手法についてファシリテーターが解説する。

- 休憩 - 16:10-[10]

## ● セッション3 「テーマグループ編成、JICA TIME」 8/24 16:20-17:15

## 1. プログラムづくりのグループ編成 16:20-[13]

◇ あらかじめ設定された7つのテーマ（コミュニケーション、環境、貧困、豊かさ・幸せ、異文化理解、多様性・多文化共生、国際協力）に対して希望を取り、5~6人の7グループを編成する。

## 2. JICA TIME 16:33-[30]

◇ JICAの事業を紹介するDVDを視聴する。JICAの事業、ガーナとラオスの概要および国別援助重点分野、教師海外研修の主な訪問先などについてJICA中部職員が説明する。

## 3. ふりかえり・事務連絡 17:03-[12]

◇ 1日目を通してわたしが学んだことをグループで発表する。

◇ 事務局が各種連絡を行う。

★ 17:15 終了

## ● セッション4 「教師海外研修報告」 8/25 10:03-10:58

## 1. ガーナ教師海外研修チーム報告 10:03-[18]

◇ 同行ファシリテーターがチームを紹介する。ガーナチームが「①ガーナの踊りの映像とともに楽器演奏 ②訪問先ごとの写真の投影と解説 ③一人一言でガーナの感想」の順に発表する。



## 2. ラオス教師海外研修チーム報告 10:21-[20]

- ◇ 同行ファシリテーターがチームを紹介する。ラオスチームが「①ラオスの文化に関するクイズ ②主な訪問先の写真の投影と解説」の順に発表する。



## 3. マンツーマン・セッション 11:41-[17]

- ◇ 教師海外研修受講者1名と開発教育指導者研修（実践編）のみの受講者1名が席に座り、指導者研修のみの受講者が海外研修受講者に研修内容などについてインタビューする。

## ● セッション5 「プログラムを作ろう！」 8/25 10:58–12:04, 13:00–14:30

## 1. プログラムづくりの解説 10:58-[14]

- ◇ 昨日設定した7つのテーマグループに分かれて座る。
- ◇ 大まかなプログラムづくりの時間半分や流れについてファシリテーターが説明する。
- ◇ プログラムづくりについての資料を各自読む。
- ◇ 「知っておいてほしいこと」について「〇〇な誰々です」という表現によりグループで一言自己紹介を行う。

## 2. テーマイメージの共有とねらいの設定 11:12-[52]

- ◇ 各テーマについての全体像を把握するために、グループでそのイメージをブレーンストーミングで書き出す。→**成果2**参照（ブレーンストーミング模造紙例）
- ◇ 今回作るプログラムを通して「学習者が何を知り、何に気づくとよいのか」「どう行動するようになるとよいのか」を対比表にしてグループで書き出す。その際どの対象に行うプログラムかを考慮する。→**成果2**参照（対比表の模造紙例）
- ◇ 対比表で出した内容の中から、学習者の意識の沿いどの順番で提供したらよいかグループで考え方を付ける。



## - 休憩 - 12:04-[60]

## 3. 90～100分のプログラムを作ろう！ 13:04-[86]

- ◇ 提示されたプログラムの様式やモデル例をもとに、設定したねらいを達成する90～100分のプログラムをグループで作る。→**成果2**参照（作成したプログラムの例）
- ◇ 12分間のプレゼンテーションの内容（プログラム全体像の説明、一部アクティビティを参加型で実際に実演）をグループで考え、役割分担（説明する人、ファシリテーター、サブファシリテーター、板書する人、必要物を配付する人など）をする。



## ● セッション6 「実践！ ファシリテーション」 8/25 14:30–17:09

## 1. プログラム1：異文化理解「みんなちがってみんないい」 14:30-[15]

- ◇ プログラム全体像の説明後、プログラムのうち「みんなは何を選ぶ？」「なぜ、それを選ぶのか？」を行う。
- ◇ 具体的には次のとおり。①カード状に切った用紙に「目玉焼きにかけるもの」を各自書き、それをグループで見せ合い理由を伝え合う。②醤油・ソース・塩胡椒・ケチャップ・マヨネーズ・何もつけないそれぞれ何人いるか全体で確認する。次に「あなたがイメージする友人・友情の色」について上記と同様に行う。

## 2. プログラム2：コミュニケーション「人と人との間にWi-Fiなんて…」 14:45-[15]

- ◇ プログラム全体像の説明後、プログラムのうち「コミュニケーション体験」を行う。
- ◇ 具体的には次のとおり。①3人組になり番号を振る。②1番の人が2番と3番の人に順に夏休みの思い出を1分間ずつ話す。その際2番の人は傾聴の態度、3番の人は否定的な態度で聞くようとする。③やってみた感想をグループで話し合った後、全体で共有する。

## 3. プログラム3：貧困「チョコレートから考える貧困」 15:00-[15]

- ◇ プログラム全体像の説明後、プログラムのうち「チョコレートたべくらべ」を行う。
- ◇ 具体的には次のとおり。①配られた2種類のチョコレートを実際に食べ比べる。②食べ比べて気づいたことを全体で発表する。③どちらのチョコレートの値段が高い？を考える（A：100円 vs B：300円）。④それぞれのチョ

コレートを作った人（A：ココちゃん、B：セディさん）のお話が書かれた文章を分担して読む。⑤2つの話を聞いたうえで、自分が買うとしたらどちらのチョコレートを選ぶかを考え、グループで紹介し合う。⑥挙手で選択結果を確かめる（A：4割、B：6割）。

#### 4. プログラム4：環境「水は有限、君の力は無限大」 15:15-[12]

- ◇ プログラム全体像の説明後、プログラムのうち「生活のどの場面で水を使うか（派生図）」「水を減らせる場面を考える」を行う。
- ◇ 具体的には次のとおり。①模造紙の中央に「水」と書き水を使う場面ができるだけ多く書き出す。②日本の水事情について説明の後、模造紙に書いた水を使う場面のうち減らせそうなものに☆印をつける。



- 休憩 - 15:27-[9]

#### 5. プログラム5：豊かさ・幸せ「探そう！いろんな形の幸せ」 15:36-[14]

- ◇ プログラム全体像の説明後、プログラムのうち「みんなが幸せになるには？」を行う。
- ◇ 具体的には次のとおり。①世界の幸せを考えるにあたりブータンの指標のうち4つ（心の満足、健康、教育、自分の時間）が満たされるにはどうすればよいかをグループで考えそれぞれ用紙にまとめる。②全体で発表する。

#### 6. プログラム6：国際協力「オレにもできる！キミとならできる！国際協力」 15:50-[15]

- ◇ プログラム全体像の説明後、プログラムのうち「1番遠くに行った場所は〇〇です。」を行う。
- ◇ 具体的には次のとおり。①思春期の高校生になりきって1番遠くに行った場所を一言で紹介し合う。②一番遠い場所を全体で聞く。

#### 7. プログラム7：多様性・多文化共生「みんな違ってみんな良い！」 16:05-[15]

- ◇ プログラム全体像の説明後、プログラムのうち「自分とあなた」を行う。
- ◇ 具体的には次のとおり。①見た目ではわからない共通点と相違点をペアの話し合いで見つけ出し対比表にまとめる。②グループで対比表を共有する。③感じたこと、気づいたことを全体で発表する。

#### 8. 2つのカードの共有 16:20-[10]

- ◇ 各プログラム発表後に体験した受講者が書いた「そこ良かった！カード」「より良くするための提案カード」の自分のグループ分を集めて、グループで内容を確認する。
- ◇ 評価のポイント（否定ではなく質問、批判ではなく提案、ベストではなくベターを続けるなど）についてファシリテーターが解説する。

#### 9. より良いファシリテーターのポイント10箇条づくり 16:30-[25]

- ◇ ファシリテーション実践やこれまでの研修をグループで振りかえり、より良い＝「人がよりよく学びよりよく変わることに寄り添う」ファシリテーターのポイントを肯定的な表現で出し合い、模造紙に10箇条にまとめる。
- ◇ 全体で読み上げ発表する。→成果3参照（10箇条+まとめ）



#### 10. 事務連絡 16:55-[14]

- ◇ 第4回・フォーラムのイメージの共有と準備事項の確認、本日の成果写真の共有、イベント講座の案内、受講者による研修の写真撮影の留意などについて事務局が連絡を行う。

★ 17:09 終了

## ■ 主な成果

### ● 成果1：子どもの頃一目置いていた大人を共有してわかったこと

- ◇あこがれ→自分から遠い人 ◇大人となった今も一目置ける人 ◇影響力のある先生
- ◇空を飛ぶことへのあこがれ（アニメのヒーローなど） ◇信頼できる人 ◇担任だった先生
- ◇確固たる信念を持っている人 ◇叶わないなと思わせる圧倒的な知識や能力を持っている人
- ◇いろんなことにおいてのカリスマ ◇見た目、外見のいい人 ◇行動力のある人

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| ◇自分を変えてくれる言葉がけや行動をしてくれた人 | ◇自分の世界を持っている人      |
| ◇今なりたい自分に重なっている人         | ◇身近な人（担任、おばあちゃんなど） |
| ◇勇気をくれた人                 | ◇愛情を感じた人           |
| ◇キラキラしている人               | ◇自分を大切してくれた人       |
| ◇著名人                     | ◇先駆者であった人          |
| ◇人のために行動ができる人            | ◇前向きな人             |
| ◇価値観を広げようとしている人          |                    |

## ● 成果2：プログラムづくりの流れ（「環境」チームの例）



### ステップ1：テーマのイメージ出し

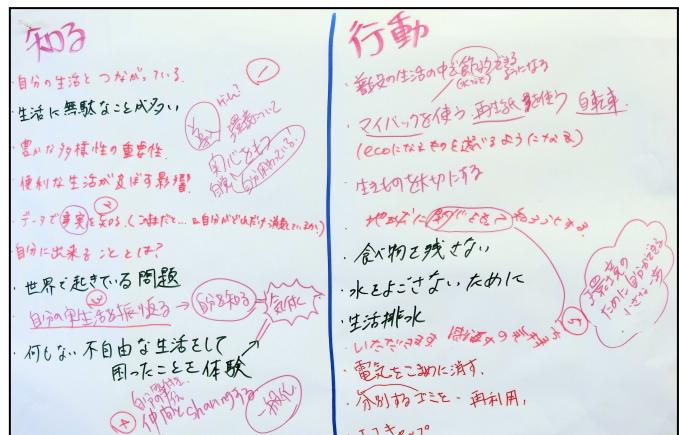
- ◇テーマについてのイメージを派生的なブレーンストーミングで書き出す（左図参照）。



### ステップ2：ねらいの設定

- ◇プログラムを通して、学習者が何に気づくとよいのか、どう行動するようになるとよいのかを対比表で書き出す（下図参照）。
- ◇対比表で出した内容から学習者の側に立ち、どの順番で提供したらよいか考える。

テーマ：環境（水）	
キヤッココピー	水は有限、君の力は無限大！
ねらい	1. 自分の生活と環境のつながりに気づく。 2. 環境のために自分ができる行動をみつける。
対象	中学生 40人 1クラス
時間	50分×2
展開	<p>（起）環境について自分の関わりに関心をもつ。</p> <p>（承）データで事実を知る。</p> <p>（転）自分の実生活を振り返り、仲間と共有化。</p> <p>（結）明日から出来うる環境のための第一歩。</p>
プログラムの流れ	<p><b>導入</b> アイスブレーキング「この夏の水との思い出」 10分 ペットボトルの水を使つて世界中で使ふべきを知る。</p> <p><b>プログラムの流れ</b></p> <p><b>知る</b> 生活のどの場面で水を使うかく派生図→A 20分 ◇ グループでブレーンストーミング</p> <p><b>気づく</b> 日本の水事情くマッチング→世界事情。 ◇ 生活のどの場面でどれだけ水を使つているか。 30分</p> <p><b>一般化する</b> Aの派生図から水を減らせる場面を考える。 ◇ どう減らせる所に? 20分</p> <p><b>行動する</b> 1. 今日から自分が環境（水）のために出来うる三箇条を書く。 2. グループ内で共有する。 20分</p>



### ステップ3：プログラムづくり

- ◇対象、所要時間を決めたら、ねらいを実現するためのプログラムの「起承転結」を考える。
- ◇「起承転結」に沿つて、アクティビティを考え、一連の流れのあるプログラムに仕上げる（左図参照）

● **成果3**：より良いファシリテーターのポイント10箇条

**<グループ1>**

- ①笑顔
- ②参加者を信じる
- ③肯定的に受けとめる
- ④時間管理を大切にする
- ⑤自分も楽しむ
- ⑥コミュニケーション能力
- ⑦願いを明確に持つ
- ⑧ねらいを明確に持つ
- ⑨前向き、なんとかなるさ
- ⑩きめ細やかさ+おおらかさ

**<グループ2>**

- ①信頼する
- ②テンポがいい
- ③組み立てがよい
- ④臨機応変
- ⑤引き出しがたくさんある
- ⑥ユーモア＆ギャグ
- ⑦同じ目線
- ⑧「願い」がある
- ⑨待つ力がある
- ⑩導く！

**<グループ3>**

- ①堂々と
- ②肯定的に受けとめ
- ③目標となる人
- ④指示出しが上手
- ⑤質問も上手
- ⑥可能性を引き出すサポーター
- ⑦時間の使い方◎
- ⑧ねらいに沿った  
知識・準備・プログラム
- ⑨内に秘めた願い
- ⑩笑顔と気配り

**<グループ4>**

- ①明確なねらいと願い
- ②笑顔・雰囲気づくり
- ③アンテナの高さ
- ④時間管理！
- ⑤言葉かけ・声かけ
- ⑥意見を広める
- ⑦柔軟・臨機応変
- ⑧受け入れる心の広さ
- ⑨経験第一！
- ⑩肯定的な態度

**<グループ5>**

- ①時間管理
- ②状況把握
- ③良好テンポ
- ④用意周到
- ⑤ねらい明確
- ⑥常時笑顔
- ⑦傾聴上手
- ⑧情熱
- ⑨柔軟性
- ⑩夢・志・願い

**<グループ6>**

- ①笑顔
- ②タイムマネジメントができる
- ③広い視野
- ④「ねらい」を持っている
- ⑤わかりやすい話し方
- ⑥相手の意見を受け入れる
- ⑦参加者から学ぶ姿勢
- ⑧健康
- ⑨アドリブ力
- ⑩自分自身も楽しむ

**<グループ7>**

- ①人のいいところを見つける
- ②臨機応変！
- ③ユーモアがあり、笑顔で楽しむ
- ④心にゆとりを持ち、待つことができる
- ⑤ねらい・願いをしっかり持っている
- ⑥参加者に寄り添い、気づきを引き出す
- ⑦全員参加の環境づくり
- ⑧たくさんのノウハウと知識がある
- ⑨きっかけを与える人になる
- ⑩丁寧な速記ができる

**まとめ**

- ① 時間の管理・使い方・テンポがよい
- ② ねらいを持ちプログラムが組み立てられる
- ③ 夢・志・願いを持っている
- ④ 笑顔を絶やさず自分も楽しむ
- ⑤ ユーモアがあり雰囲気づくりができる
- ⑥ 参加者を信じ、寄り添い、待つ
- ⑦ 参加者の気づきや可能性を引き出す
- ⑧ 肯定的な態度・同じ目線で受けとめる
- ⑨ 用意周到で臨機応変・柔軟性がある
- ⑩ 問い・言葉かけが適切にできる
- ⑪ 心にゆとりを持ち状況把握・気配りができる
- ⑫ 全員参加の環境づくりができる
- ⑬ 知識・ノウハウ・視野の幅が広く引き出しが多い
- ⑭ アンテナが高く意見を広める
- ⑮ きめ細かさとおおらかさ・前向きさがある
- ⑯ 経験を積み、堂々としている
- ⑰ 参加者から学ぶ姿勢がある
- ⑱ 丁寧な板書（速記）ができる
- ⑲ 健康である
- ⑳ 目標となる人になる